

学校団体による平城宮跡歴史公園の利用状況調査 —朱雀門ひろば開園の影響を中心に—

はじめに 本稿は国営平城宮跡歴史公園（以下、公園）の学校団体による利用状況について、初めてアンケート調査した結果の概要である。公園には2018年3月24日に朱雀門ひろばが開園し、そこに奈文研が展示監修した平城宮いざない館（以下、いざない館）も開館した。そのため、質問は朱雀門ひろば開園前後での平城宮跡見学時の行動の変化、今後の公園利用見通し等を読み解く鍵となるものを中心とした。なお、アンケートは平成30年度中に来園した学校が対象の「校外学習利用者アンケート」（質問数14。以下、「利用者」）と、来園しない近隣の学校を対象とした「利用要望アンケート」（質問数11。以下、「要望」）の2種類の調査票で行ったが、紙幅の都合からここでは前者の集計結果を中心に記す。

アンケートの方法 調査票は2018.9.18～12.14の間に①いざない館に来館した学校団体への手渡し、②教育委員会を通じた配布（奈良市、大和郡山市、生駒市、天理市の公立小・中・高）、③郵送（前述の4市内所在の国・私立小・中・高）の3通りの方法で配布（「要望」は②③の対象のみ）した。回答単位は、「利用者」は平成30年度中の団体来園1回につき1件、「要望」は1校につき1件とし、前者は来園を引率した教員が記入するよう求めた。そのため年度内に1校から2回来園があった場合、「利用者」も1校から2件回答されていることがある。回収票のうち有効回答票数は119件（「利用者」70件、「要望」49件）だった。

学年、所在地、行事 「利用者」質問1～3で来園団体の属性を尋ねた（図40～42）。9割近い61件が小学校で、多い順に6年生が39件、4年生が10件を占めた。学年、所在地、行事には密接な関係があり、特に小6の来園39件中33件が県外から、うち29件が修学旅行だった。修学旅行の学校30件¹⁾の所在地は図43の通りで、最多の兵庫県を始め奈良県の隣の隣の県が多い。一方、小4は行事は様々だったが10件とも奈良県内の学校だった。

来園時の学習目標 「利用者」質問4は今回の行事で設定した学習テーマや目標を尋ね、59件の記述回答があった。回答中で10件以上が使用した語句を順に挙げると、①「歴史」30件②「奈良」13件③「知る（知ろう）」13件④「触れ」12件⑤「学習」12件⑥「深め」10件、となっ

た。回答には「奈良時代」（3件）「古都奈良」（3件）「文化」（7件）「世界遺産」（4件）等の語句もみられ、全体的に歴史や地域の文化財学習を目的に来園しているようである。この傾向は遠足で来園した学校も同様で、該当する12件中7件の回答に「歴史」が登場した。これは学習指導要領に定める小学3、4年生社会、および小学6年生社会の学習内容²⁾が影響している。また「触れ」の使用が多いことからは、教室外に出る貴重な機会に子供達が実体験から学ぶことを期待していることが伺える。

公園中の利用場所 「利用者」質問5で公園中のどこを利用したか選択式で尋ねた（図44）。ただし回答70件中41件は調査票をいざない館で受け取ったと考えられ³⁾、いざない館を訪れなかった学校は回答自体が少ないと留意が必要である。特徴的なのは朱雀門ひろば内の施設（①～⑦）と比べ、平城宮内の施設（⑧～⑭）の訪問数が明らかに低いことである。修学旅行では特に顕著で、8割の学校が⑧～⑭を訪れていない。おそらく奈良公園や西ノ京等へも行くため、公園での滞在時間は短めなのだと想われる。一方、遠足では半数は宮内の施設へ行っており、やはり行事の性質上行動範囲が広い傾向がある。

いざない館見学理由 「利用者」質問6ではいざない館を見学した63校にその理由を、質問7では全校を対象に来園中およびその前後での学習内容や準備の有無について、選択式で尋ねた。共に複数回答可だが、設問6は回答を主な理由に絞ってもらうため選択数上限を3つとした⁴⁾（図45、図46）。質問6で①②、質問7で①の回答が多いことは、実際に来館した教員が質問4の回答に挙げた学習テーマに適した施設として、高評価をしているためと解釈できる。なお「要望」質問11の感想の自由記述でも、回答を担当した教員の個人的な来館時の感想として、いざない館の展示を評価する記述が複数あった。

昨年度について 「利用者」質問8～10では昨年度の来園状況や関連事項について尋ねたが、38件（54.3%）は昨年度に来園していない。詳細はここでは省くが、昨年度来園時の利用施設と図44とを比較すると、今年度に利用率が増加したのは朱雀門と昼食用空地のみで、特に平城宮跡資料館と第一次大極殿は減少率が大きかった。朱雀門ひろばの吸引力の強さの表れではあるが、公園全体の活性化という点からは大きな課題だとも言える。

今後について 「利用者」質問11～12では来年度以降の

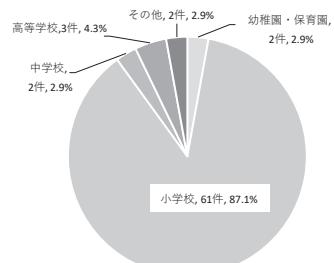


図40 「利用者」回答学校（70件）の校種

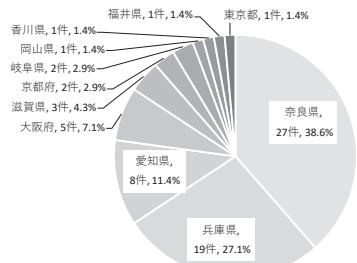


図41 「利用者」回答学校の所在地

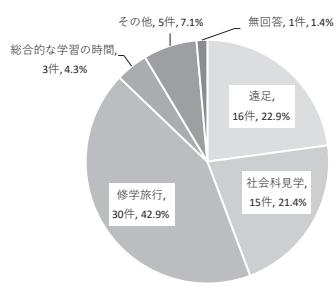


図42 来園学校の行事種別

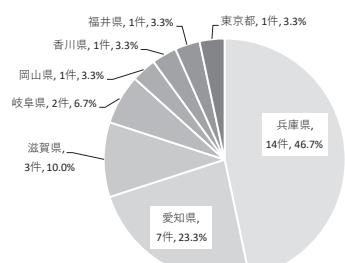


図43 修学旅行での来園校（30件）の所在地

見通しを尋ね、質問13で今後の要望、質問14で感想を自由記述してもらった。質問11では来年度に利用したい公園内の施設を尋ね、70件中6件は未定や訪問しない旨⁵⁾の回答だったが、全体的な傾向は今年度と似ていた。質問12では、今回と異なる学年・行事での今後の来園希望があるかを尋ねたが4件しか回答がなく、1度来園した学校は学年が固定化する傾向が読み取れ、今後も小4と小6が来園の主要層となることが予想される。今後の要望は「雨天時の昼食場所確保」が多く、これは「要望」でも不安視する回答が多かった。ただし実際にはある程度対応可能なため、公園からの情報提供不足の表れだとも言える。質問14は好意的な記述が多く、特にいざない館のハンズオン展示と、NPOやボランティアの解説が好評だった。批判にはトイレや駐車料金等設備面への不満や、解説員の水準のバラつきの指摘等があった。

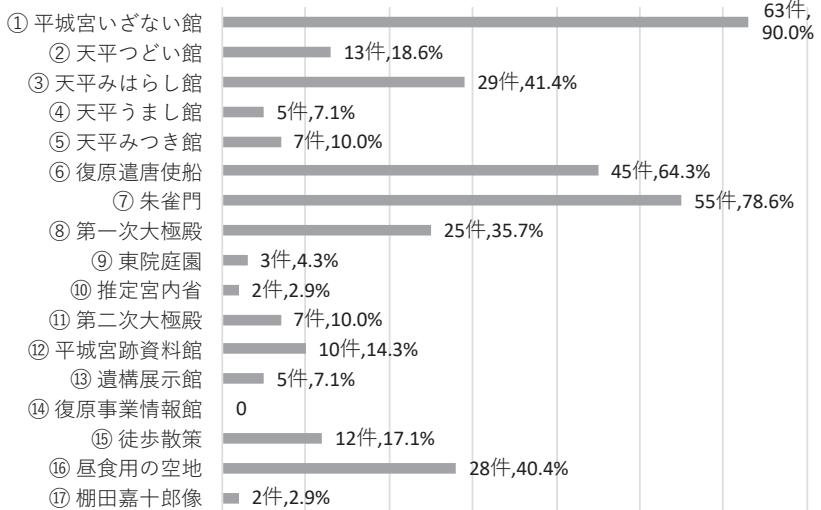


図44 今回訪れた場所（質問5）

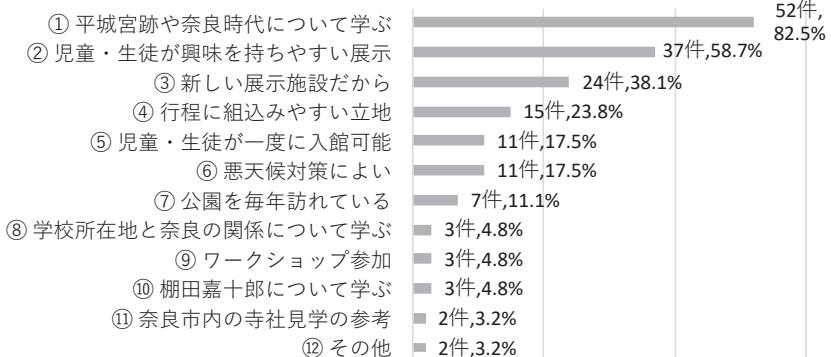


図45 平城宮いざない館の見学理由（質問6）



図46 来園前の準備、行事後の学習の実施状況（質問7）

総括 今回の調査では来園した学校からの評価はおおむね好評だった。学校教育の観点からは現在の運営路線は支持されていると言え、今後も校外学習で公園が利用されることが期待できる。ただし既に利用層の固定傾向がみられること、現在も対応可能な事柄が今後の要望として記された例が多かった点からは、広報や公園利用方法のモデル提示の不足が読み取れる。今後の一層の利用増を図るには、公園側からの積極的な情報公開や新たな利用モデルの提示を進めていく必要があるだろう。(田中恵美)

註

- 1) 修学旅行で来園した残る1件は、小5・6合同での来園。
- 2) 学習指導要領「生きる力」 第2章 各教科 第2節 社会 第2 各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕および〔第6学年〕。
- 3) 近隣市に所在する小・中・高校以外から返送された調査票数の合計。
- 4) 4件が選択肢を4つ選んでいたが、優先順位が不明のため図にはそのまま計上した。
- 5) 6件中5件は未定または既に他の訪問先に決定済と回答。